

平成 26 年度 達古武地域エゾシカ試験捕獲

実施結果

1. 概要

以下に示す地域で、「大型囲いわな」、「小型囲いわな」「くくりわな」によって試験捕獲実施し、釧路湿原におけるシカの管理に利用する捕獲手法やその組み合わせ方法、課題等について検討した。



図 捕獲手法検討を行った地域（図中白枠内：環境省所管地）

本業務で用いた捕獲手法の概要

手法	わなの概要	長 所	短 所
大型囲いわな	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲長 50m ・ Web システムによる捕獲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 条件が良ければ多頭数の捕獲可能 ・ 生体で捕獲可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスト高い ・ 機動性が低い ・ 生息密度が低い箇所では捕獲効率が悪い
小型囲いわな	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲長 16m ・ 造りが簡易 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスト低い ・ 機動性が大型と比較して良い ・ 小さいので目立たない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道内では導入事例少ない（技術開発中）
くくりわな	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来型を改良したタイプを使用 ・ 直径 12cm 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機動性が非常に高い ・ わなが安価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物福祉上の課題有り ・ 錯誤捕獲

2. わなの概要

(1) 大型囲いわな

昨年度と同じ場所に、同規模（周囲長 50m）のわなを設置。Web で遠隔監視・操作して捕獲できる。捕獲したシカは有効活用業者に引渡し。



写真 大型囲いわなの全体像

(2) 小型囲いわな

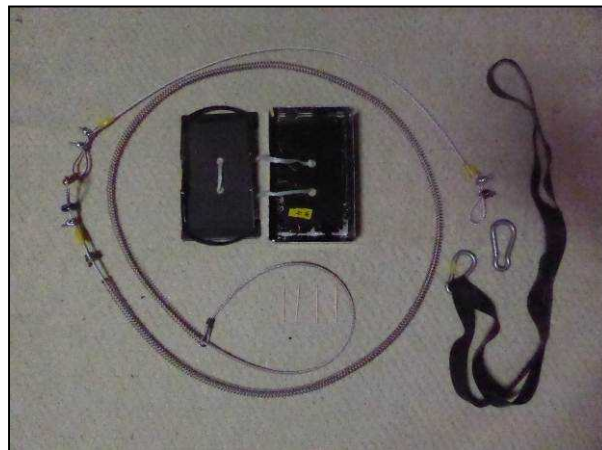
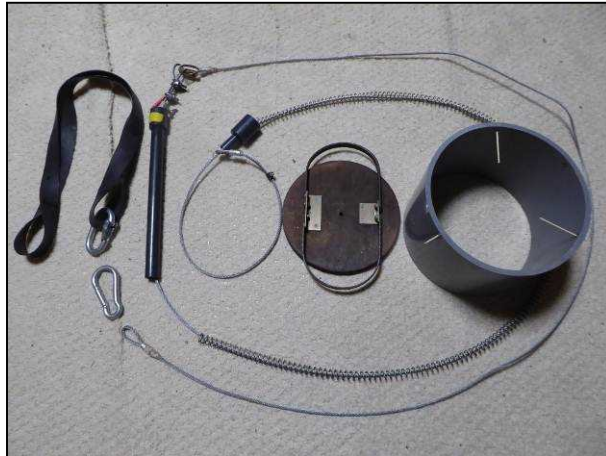
兵庫県立大学が中心となって開発した小型囲いわな（商品名：サークルD）を、釧路湿原での使用を考えて改良。閉鎖機構や、捕獲したシカが傷つかない仕組みについて検討し、技術開発を実施。捕獲したシカは止めさしして処分。



写真 本業務で改良開発した小型囲いわな（原型は「サークルD」）

(3) くくりわな

従来用いてきたわなを独自に改良したもの（以下写真の左上）、静岡県森林林業研究センターとわなメーカーが改良したわな（写真右上）、その従来型のわな（写真下）の3種類を利用。捕獲したシカは止めさしして処分。



(4) 実施時期

大型囲いわなは1月下旬、小型囲いわなは2月上旬、くくりわなは2月下旬から稼働。

	11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
準備		→													
1) 個体数調整のための捕獲手法検討及び試験捕獲															
① 大型囲いわなによる試験捕獲															
事前誘引				→											
ワナ設置							→								
捕獲作業									→						→
撤収															○
② 小型囲いわなの開発と試験捕獲															
設置									→						
開発及び捕獲作業										→					→
撤収															○
③ くくりわなによる試験捕獲															
捕獲作業															→

3. 結果概要

(1) 捕獲結果

＜大型囲いわな＞ わな設置期間 69日間								
捕獲日	オス成獣	メス成獣	仔(当歳)	合計	GPS首輪装着	有効活用	放獣GPS装着を除く	一般廃棄物処理
2月4日			4	4			4	
2月10日	1	4	8	12	2	9	1	
2月12日		4	2	6	1	5		
2月16日		4	5	9	2	7		
2月27日		1		1	1			
3月9日		3	5	8		8		
3月17日		1	7	8		8		
3月19日		3	3	6		6		
小計	1	20	34	54	6	43	5	0

＜小型囲いわな＞ わな設置期間 13日間								
捕獲日	オス成獣	メス成獣	仔(当歳)	合計	GPS首輪装着	有効活用	放獣GPS装着を除く	一般廃棄物処理
2月18日		1	1	2				2
3月12日			1	1				1
3月16日			1	1				1
3月19日		1	2	3				3
小計	0	2	5	7	0	0	0	7

＜くくりわな＞ わな設置数 300わな・日								
捕獲日	オス成獣	メス成獣	仔(当歳)	合計	GPS首輪装着	有効活用	放獣GPS装着を除く	一般廃棄物処理
2月27日		1	1	2				2
3月4日	1	1		2				2
3月5日		1		1				1
3月6日		1	1	2				2
3月12日		1		1				1
3月13日		1		1				1
3月22日		1		1				1
小計	1	7	2	10	0	0	0	10

	オス成獣	メス成獣	仔(当歳)	合計	GPS首輪装着	有効活用	放獣GPS装着を除く	一般廃棄物処理
合計	2	29	41	71	6	43	5	17

※上記のほか、学術捕獲のため麻酔銃による捕獲を実施して4頭を捕獲している。これを加算すると、平成26年度の取り組みでは75頭の捕獲（平成27年3月23日現在）となる。

(2) 捕獲手法別の課題等

①大型囲いわな

- ・大型囲いわなは、これまでに使用してきた実績も多く、信頼性も高かった。
- ・誤作動も特にみられず、捕獲数も順調に推移。
- ・3月上旬の暴風雪で目隠しの大半が壁面のネットから剥がれたが、わな本体に損傷はなし。



写真 左：大型囲いわなで捕獲したシカの例 右：目隠しが破損したわな

②小型囲いわな

- ・既製品をそのまま試用したところ、道内での使用や本試験の目的に合わせるためには改造が必要であった。
- ・壁面に目隠しをし、保定用のネットを常設するようにした。
- ・上記の改善を行った後は、順調かつシカを傷つけることなく捕獲出来た。



写真 左：壁に目隠しを張っていく様子 右：目隠しを張ったわな。一部見通しが利く

③くくりわな

- ・従来の製品を改良した2種類のわなで捕獲が多くなされた。
- ・くくりわなは土の上に設置することを想定して作られているが、雪上設置、寒冷地のための工夫が必要であるものと思われた。

4. まとめ

- ・3種類の捕獲手法を合わせて**合計71頭**を捕獲。
- ・各手法には一長一短があるので、シカの生息状況を把握しながら、**組み合わせで実施していくことが重要**。
- ・**小型囲いわなには技術改良の余地がまだまだある**。捕獲した個体をできるだけ安全に速やかに止めさしするか、あるいは運搬するかという点については、道内での事例を増やして研究開発することが必要。
- ・小型囲いわなは、湿原のような環境でも有効であると考えられ、釧路湿原において**複数個を運用し、効率よく捕獲する**運用方法を検討することは貴重なモデル事業となると考える。
- ・大型囲いわなは2年目。知床半島や、阿寒前田一步園財団でも、**同一箇所でも複数年捕獲を実施すると、徐々に捕獲効率が下がってくる**と言われる。来年度以降も継続するならば捕獲効率にも注目したい。またそうなった場合は小型囲いわなやくくりわなが重要な代替手法となるので、今後も技術開発が必要。